

会 議 録

会 議 の 名 称	令和6年度 第2回地域福祉計画推進会議	
開 催 日 時	令和6年8月20日(火) 13時30分～15時15分	
開 催 場 所	宍粟市役所 5階 501会議室	
議長(委員長・会長) 氏 名	地域福祉計画推進会議 会長 藤原 慶二	
委 氏 員 名	(出席者) 藤原慶二(会長)、澤田 志保(副会長)、波多野好則、三木勇人、鎌田恵司、森田 圭、谷林由美、中林久美子、井口 明則	(欠席者) 春名郷子、竹森 智鶴、塚崎暁則
事 務 局 氏 名	健康福祉部 三木部長、安井次長、有元次長 健康福祉部社会福祉課 西嶋課長、木村副課長、大塚係長	
傍 聴 人 数	0人	
会議の公開・非公開の区分及び非公開の理由	<input checked="" type="checkbox"/> 公開・非公開	(非公開の理由)
決 定 事 項	<p>(議題及び報告事項)</p> <p>① 開会 会長あいさつ</p> <p>② 委員紹介及び副会長選任</p> <p>③ 会議の目的(趣旨の説明)【資料5-1】</p> <p>④ 協議事項</p> <p>(1) 重層的支援体制整備事業について【参考資料】</p> <p>(2) 第4期 宍粟市地域福祉計画の市民アンケート調査結果について【資料1～資料3-2、資料7】</p> <p>(3) 第4期 宍粟市地域福祉計画の骨子案について【資料7～資料10】</p> <p>⑤ 報告事項</p> <p>(1) 今後のスケジュールについて【資料5】</p> <p>(2) 宍粟市地域福祉計画推進会議委員意見書について</p> <p>⑥ 閉会</p>	
会 議 経 過	別紙のとおり	

<p>会 議 資 料 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会議次第 ・出席者名簿 ・宍粟市地域福祉計画推進会議意見書 ・宍粟市施策体系案【資料1】 ・地域福祉計画の策定・改定ガイドブック（全社協）【資料2】 ・新旧施策体系図【資料3】 ・市の取組・評価指標のまとめ(一覧)体系図【資料4】 ・第3期 宍粟市地域福祉計画施策検証シート【資料5】 ・宍粟市地域福祉計画推進会議要綱【資料6】 ・宍粟市成年後見制度利用促進実施計画イメージ【資料7】 ・地域福祉計画に盛り込む事項チェック表【資料8】 ・各種計画の数値目標等【資料9】 ・成年後見制度推進計画を包含した地域福祉計画【参考資料】
<p>議 事 録 の 確 認 (記 名)</p>	<p>(委員長等)</p> <p>_____</p>

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
事務局	1 開 会
会長	2 あいさつ 会長 あいさつ
事務局	3 委員の紹介及び副会長の選出 (委員の互選により決定)
事務局	4 第3期 宍粟市地域福祉計画の進捗について 資料4、5を用いて説明
会長	令和2年から5年のいわゆるコロナ禍がアンケート結果にも影響しているように感じる。 一方、生活困窮者に対する支援は、社会福祉協議会などの団体によるものも含め、第3期計画策定時と比較して手厚くなっているように思われるが、アンケート結果で生活困窮者に対する支援の満足度はあまり上昇していないことを考えると、数字だけで評価することはできない。
委員	アンケート結果に地域差はみられるのか。
事務局	居住地域でクロス集計は行っておらず、地域差の有無はわからない。 いくつかの質問について、居住地域でクロス集計し、次回の推進会議等でお示しする。
事務局	5 計画骨子案（施策体系）について 基本理念について資料3を用いて説明
委員	事務局の基本理念（案）に「断つ（断たずに）」という言葉が入っているが、計画の理念に否定的な言葉が使われているのを見たことがなく、事前資料を見たときに、違和感と同時に危機感を持っているようにも感じた。事務局の説明で少し理解することができ、違和感は改善されたが、基本理念の言葉だけみると、複雑に感じました。
会長	委員の発言のとおり、計画の基本理念はポジティブな言葉が使われてい

	<p>るのが一般的であると思います。基本理念は説明があって受け止めるのではなく、計画に記載された言葉を見て受け止めることになることを踏まえて考えた方がいいかもしれません。</p>
委員	<p>基本理念の案として、「つむぎ織り成す」というものがあつたが、つむぐための針や糸はどういったものを示しているのか。</p>
事務局	<p>つむぐための針は特定の人や団体を示しているものではなく、行政や各種団体、地域活動の世話役などさまざまな人や資源がつむぐ針に該当するというイメージになります。また織り成す糸も人や資源であり、一人として糸にならない人や資源はなく、みんなで大きさや模様が違うものを織り成し、それがつながって地域になるというイメージになります。</p>
委員	<p>「断たずに」という言葉を使った基本理念の案は良くないと思います。</p>
委員	<p>「つむいで織り成す」という基本理念案の方がいいと思います。</p>
委員	<p>同感です。「断たずに」という言葉を使った基本理念は危機感を伝える言葉としては理解できるが、少し強すぎるように感じます。</p>
事務局	<p>補足になりますが、基本理念は変更しなければならないものではなく、現在の計画の基本理念を継続することもできます。また、事務局が提示した案と全く異なる基本理念を考えていただくこともできます。</p>
会長	<p>基本理念には、「みんなでやってみよう」という考えを表す言葉を使用するのもいいと思います。「断たずにつむぐ」という基本理念にした場合、これまでの「みんなで」というものから少し「個」の部分が強くなるように感じます。そのあたりも踏まえて考えていただければと思います。</p>
委員	<p>「つむぐ」と「織り成す」は意味が重複するので、「つながりを みんなで織り成す」とか「みんなでつむぐ」といった表現にしてはどうかと思います。</p>
委員	<p>このような思いからこの基本理念にしましたという説明は、計画の中の取り組みなどでされるとは思いますが、「つむぐ」という言葉は普段あまり使う言葉ではないので、「みんなで織り成す」という折衷案でもいいのかなと</p>

	<p>思います。また、第3期の基本理念を継続するというだけでもいいとも思います。</p>
会長	<p>考え方として、第3期の計画中にいわゆるコロナ禍という期間があつて、第3期の計画期間中に目標としていたことが達成できなかった。だから第3期の基本理念を継続して取り組むという考え方と、コロナ禍に起こったさまざまな影響から新たな基本理念のもとに取り組むという考え方ができると思います。</p>
事務局	<p>一旦、基本目標などの協議に進み、再度基本理念を協議することを提案する。</p>
会長	<p>基本理念は、基本目標などを協議した後、再度協議します。</p>
事務局	<p>5 計画骨子案（施策体系）について 基本目標について資料3を用いて説明</p>
委員	<p>基本目標2の事務局案「誰一人孤立させない」という部分は、基本理念にもなるほど大きなテーマであるように感じる。このことについては、基本目標の下での施策目標や取組を整理することで全体のバランスを整えることはできると思うが、「誰一人孤立させない」という言葉は強すぎるように感じる。</p>
会長	<p>「孤立させない」という表現が少し強く思います。孤立したくて孤立している人はいないと思いますが、「させない」という言葉に強制的と感じてしまうかもしれません。</p>
委員	<p>「孤立させてはいけない」という活動になると、限定してしまうように感じる。</p>
会長	<p>「見守り活動」が「見張り活動」になってはいけないので、そのあたりを考える必要があると思います。</p>
事務局	<p>「誰一人」という言葉はいくつかの制度の目的などで使用されている言葉であり、「みんな」よりも全ての人であることが分かる「誰一人」という言葉を使用しました。また、「孤立させない」ことはとても重要なことであ</p>

	<p>り、第3期計画中に施行された法令などからも整理が必要であると考え、基本目標に盛り込みました。</p>
委員	<p>基本目標の「誰一人」という言葉にこだわりを持つのであれば、基本理念とセットにする。合わせる事が大事だと思います。</p>
委員	<p>「孤立させない」という表現ではなく、「一人ひとりを大切にする」とか「人を大切にする地域づくりをしましょう」というような前向きな言葉の方が「孤立」よりもいいと思います。</p>
委員	<p>「寄り添い支え合う地域をつくろう」というような表現でもいいと思います。</p>
会長	<p>基本目標や基本理念には、あまりネガティブな言葉を使うよりも、ポジティブな言葉を入れる方が、みんなが「よしやろう」という気持ちになるという意見ですね。</p>
委員	<p>そのように思います。</p> <p>基本目標は前向きな表現で示し、基本目標の中の柱となる具体的な取組で「孤立させない」という考えが大事ですとしたほうが、基本目標と施策目標が親子のような関係になって見やすいと思います。</p>
会長	<p>「みんな」という少しふわっとした表現にするのか、「一人ひとり」のように「個」に焦点をあてて表現するのかを整理するということになりますね。</p>
事務局	<p>前回の推進会議では、地域福祉では個人を把握する必要がある。個人の困りごとが集まったものが地域課題であるといった意見があり、そのような意見を踏まえ、どのように「全」と「個」、またそのつながり、関係性を表現したく、案を作成しています。</p>
会長	<p>従来の「地域福祉」はどちらかというと「みんな」という考えが強く、「みんな」という考えで保つことができていたが、新型コロナウイルス感染症の流行により、これまでの活動が維持できなくなり、つながりがなくなったものがある。第4期計画中は、従来の「みんな」という部分とつながりの再構築の両方に取り組みなければならず、大変さと難しさがあ</p>

	<p>ると思います。</p> <p>第4期計画がそのような期間であるとするならば、基本目標1で従来の「みんなで」という部分を表し、基本目標2は「個」の部分、「再構築」の部分を表し、基本目標3が基本目標1と2を下支えする仕組みづくりのように施策体系として整理することができるように思います。</p> <p>基本目標2の「誰一人孤立させない」という言葉を変えるのであれば、基本理念の案であった「断たずに」や「つむぐ」も別の表現に変更して、委員の意見にあったように基本理念と基本目標をリンクさせることができるのではないかと思います。</p> <p>これまでの議論を踏まえて、「寄り添う」といった言葉を入れるのも一つだと思います。また基本目標1と2で「みんなで」と「一人ひとりに」というように言葉を使い分けるということも一つだと思います。</p> <p>これまでの意見と反対の意見になりますが、事務局の「孤立させない」という表現は、そのための覚悟や何をしようとしているのかが明確でいいと思いました。</p> <p>また「誰一人」という言葉もいいと思っていて、「誰一人 おいてけへんで 宍粟のふくし」という基本理念はどうかと思いました。</p> <p>困っているときに欲しいものは寄り添ってもらって安心感ではないかということで「誰一人 おいてけへん」のような強い表現になっても、そこに怖さは感じず、頼もしさを感じるのではないかと思います。</p>
委員	<p>これまでの意見と反対の意見になりますが、事務局の「孤立させない」という表現は、そのための覚悟や何をしようとしているのかが明確でいいと思いました。</p> <p>また「誰一人」という言葉もいいと思っていて、「誰一人 おいてけへんで 宍粟のふくし」という基本理念はどうかと思いました。</p> <p>困っているときに欲しいものは寄り添ってもらって安心感ではないかということで「誰一人 おいてけへん」のような強い表現になっても、そこに怖さは感じず、頼もしさを感じるのではないかと思います。</p>
会長	<p>言葉を見たときの感じ方に、専門職の方と市民の方の差があると思います。専門職の場合、課題に対して解決策を考えるので、危機感や課題解決に向けた決意表明のような表現があると安心するけど、市民が見ると少し強い表現に感じてしまうということがあるように思います。この人によっての感じ方・受け止め方が基本目標などの言葉を選ぶ判断の分かれ目になるのかと思います。</p>
委員	<p>第4期計画の重点取組目標がどのあたりになるのかが資料ではわからないので、説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>基本目標に重点取組目標は設けていません。次に協議いただく、施策目標のところ、基本目標2の施策目標に追加した「支える人を支える仕組みをつくります」が重点取組目標となります。これは、いわゆる困難事例を支援する支援者が抱え込んでしまってバーンアウトすることや地域活動</p>

	<p>の世話役になるのなら団体には所属しないというようなことにならないよう新たに設けた施策目標になります。</p>
委員	<p>無難な表現は安全かもしれないが、基本目標2の「孤立させない」には強い思いを感じるので、思いを感じることができる前向きな言葉に変えてはどうかと思います。</p>
委員	<p>前向きな言葉にするのがいいと思います。計画なので戻すより進む表現がいいと思います。</p>
会長	<p>基本目標2に関しては、「させない」という言葉が強いというのであれば、「しない」に変えてはどうかと思います。</p>
委員	<p>基本理念になりますが、「おいてけへんで」という表現がいいと思いました。</p>
会長	<p>「おいてけへんで」というのは、どういったことを表現しているのか。</p>
委員	<p>「おいていかないよ」という意味を播州弁で表現した。</p>
委員	<p>基本目標2はアンケートの結果を踏まえてのことであると思うので、基本目標に「誰一人孤立しない地域をつくりましょう」という言葉があってもいいと思います。</p>
会長	<p>たとえば基本理念に「おいていけへんで」を入れるのはどう思いますか。</p>
委員	<p>これまでの市の計画の基本理念を考えると、冒険の基本理念になると感じます。社会福祉協議会の地域福祉推進計画の「ほっとけないを ほっとかない」もインパクトが強いので。</p>
委員	<p>基本理念や施策目標の言葉は変わっても、施策や取組が大きく変わるものではないので、見せ方を変えることが悪いとは思わない。</p>
会長	<p>第3期計画中の約4年間のコロナ禍を受けての第4期計画になるので、見せ方を大きく変えるタイミングとしては良いのかもしれない。</p>

委員	実際にコロナ禍で状況などは大きく変わったと思う。
会長	基本目標の部分を少しまとめると、基本目標2のところは、「させない」ではなく「しない」の方がいいだろう。基本理念には「おいてけへん」という言葉を入れてはどうだろうかということになりました。
事務局	5 計画骨子案（施策体系）について 施策目標について資料3を用いて説明
委員	基本目標3の施策目標（1）の「相談を包括的支援につなげます」とあるが、「相談」という言葉を「多岐にわたる困りごと」にした方が市民は分かりやすいのではないか。
委員	基本目標2と基本施策（2）が同じ表現になっているのはなぜか。
事務局	「誰一人孤立させない地域をつくります」ということを基本目標・基本施策どちらにするか判断がつかず、双方に記載した。
会長	基本目標に設定して、施策目標（1）、（3）、（4）、（5）の中で、基本目標にした「誰一人孤立させない地域をつくります」に対する具体的な取組を示すのであれば、基本目標に設定し、施策目標（2）は削除していいように思います。 第3期計画と比較して、基本目標2の部分に大きな変更があり、重点取組目標になると思います。
事務局	基本目標1の基本施策（2）を「市民活動・ボランティア」から活動の大きい・小さいではなくあらゆる活動を含めることで、参加のハードルを下げたいと「地域福祉」としたが、表したいことが正しく伝わるようになっているか判断ができないため、意見を伺いたい。
会長	事務局の意図を踏まえると、「地域福祉」よりも「地域活動」と表現する方がいいと思います。
委員	社会福祉協議会が専門的に取り組まれているコミュニティワークは施策体系のどの部分になるのか。

委員	<p>コミュニティワークのベースは基本目標 1 の基本施策（1）の福祉学習になり、基本目標 1 に占める割合が大きいです。幅広い取り組みになるため、具体的に説明することは少し難しい言葉になります。</p>
会長	<p>コミュニティソーシャルワークという言葉もあり、説明が難しいものだと思います。</p>
委員	<p>基本目標 1 の施策目標（2）の「地域福祉」が示す「福祉」の範囲にもよるが、地域の活動に参加することが「地域福祉」につながるという考え方であれば、「地域活動」という言葉にしたらいいと思います。その他に「地域福祉活動」という言葉も考えられるが、この場合、該当する活動が限定されるので、「地域活動」とした方がいいと思います。</p> <p>ボランティアの考え方、どのような活動をボランティアと言うのかについては、時間経過の中で変わってきていると思います。今回の事務局案をみて、「ボランティア」って言葉がなくなっていると気がつきました。</p>
会長	<p>近年はボランティアと言え、災害ボランティアにシフトしている印象もあり、伝えたい意味合いで言葉を伝えるのが難しくなっている。施策目標に「ボランティア」という言葉を使わなくても、施策や取組で示せばいいと思います。</p>
委員	<p>今は「ボランティア」といっても、災害ボランティアや有償ボランティアなど、「ボランティア」といって思い浮かべることは人それぞれになっており、施策目標ではなく、施策や取組で整理すればいいと思います。</p>
会長	<p>事務局の案では、基本目標 2 とその施策目標（2）に同じ文言が入っていることについては、施策目標（2）を削除して、基本目標 2 の（1）、（3）～（5）で削除する施策目標（2）の内容を表現する。また基本目標 3 の「相談」という言葉については、「多岐にわたる困りごと」という表現に変更するというところでよろしいでしょうか。</p>
一同	<p>反対等意見なし</p>
委員	<p>基本目標 2 の施策目標（4）に「支える人を支える仕組みをつくります」とあるが、具体的にどういったことを考えているのか。</p>

事務局	<p>複雑化・複合化した課題のある人の支援者の中には、全てを抱え込んでしまうことがあります。また、地域活動を行っている各種団体でも中心となるいわゆる世話役の負担が大きく、世話役にはなりたくないという活動への参加を敬遠するといった現状を伺うことがあります。そのため、この施策目標では、頑張る人を孤立させずにみんなで支える仕組みを明記したいと考えています。</p>
委員	<p>仕事でもできそうな人、断らない人に集中することがあり、難しいことだと思いますが、特定の人がしんどくなってしまふことは改善しないといけないと思うので、施策目標に入れることは良いと思います。</p>
会長	<p>第4期計画の期間中に何かしらの方向性や一つでも支援者支援の取組ができるといいと思います。支援者支援は他の自治体でも課題になっており、特に専門職のなり手不足は必ず課題になると思います。</p> <p>これまでの意見を踏まえ、事務局で修正をお願いします。</p> <p>次に、事務局から計画に対する提案があるということですので、事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>5 協議事項</p> <p>計画に対する提案について資料7～9を用いて説明</p>
会長	<p>事務局の提案は、1つめとして、地域福祉計画は理念計画の意味合いが強いので、これまでやっていたような数値目標を改めて再掲する形ではなくて、この計画で掲げなくてはならないという数値目標については設定するが、他の計画のものは設定しないということ。</p> <p>2つめが再犯防止と成年後見については、それぞれの計画を内包する形で地域福祉計画を策定していくというものであったと思います。</p> <p>これらについて、何かご意見等あればお願いします。</p>
委員	<p>これらの項目は、皆さんになかなか知っていただきにくい項目ではあると思いますが伝わりにくいものでもあると思いますので、こういった計画に盛り込み、施策展開につなげていくことは大切だと思います。</p>
会長	<p>1つめの数値目標については、これまでのように他計画で定められている目標値を再掲するのではなく、地域福祉計画に限定して定めることにする。2つめの再犯防止推進計画と成年後見制度促進基本計画は地域福祉計</p>

	画に内包するという点でよろしいでしょうか。
一同	反対等意見なし
会長	再犯防止や成年後見制度の取組内容を計画に盛り込むのであれば、携わっている人の意見を取り入れること、計画に盛り込んだ後は評価を行うことになるので、それぞれの分野に長けた人に参加してもらう必要があると思いますので、事務局はその点を踏まえるようにしてください。 協議事項は以上となります。 今後のスケジュールと意見書について、事務局から説明をお願いします。
事務局	6 その他 今後のスケジュール及び宍粟市地域福祉計画推進会議委員意見書について事務局から説明
会長	説明に対する質問等がありますか。
一同	質問・意見等なし
会長	次回の推進会議は10月下旬から11月初旬に開催したいと思います。
事務局	計画の基本理念について、最終確認をお願いします。
会長	計画の基本理念について、読み合わせを行い、確認します。 「誰一人 おいてけへんで 宍粟のふくし」でよろしいでしょうか。
一同	異議なし
	7 閉会